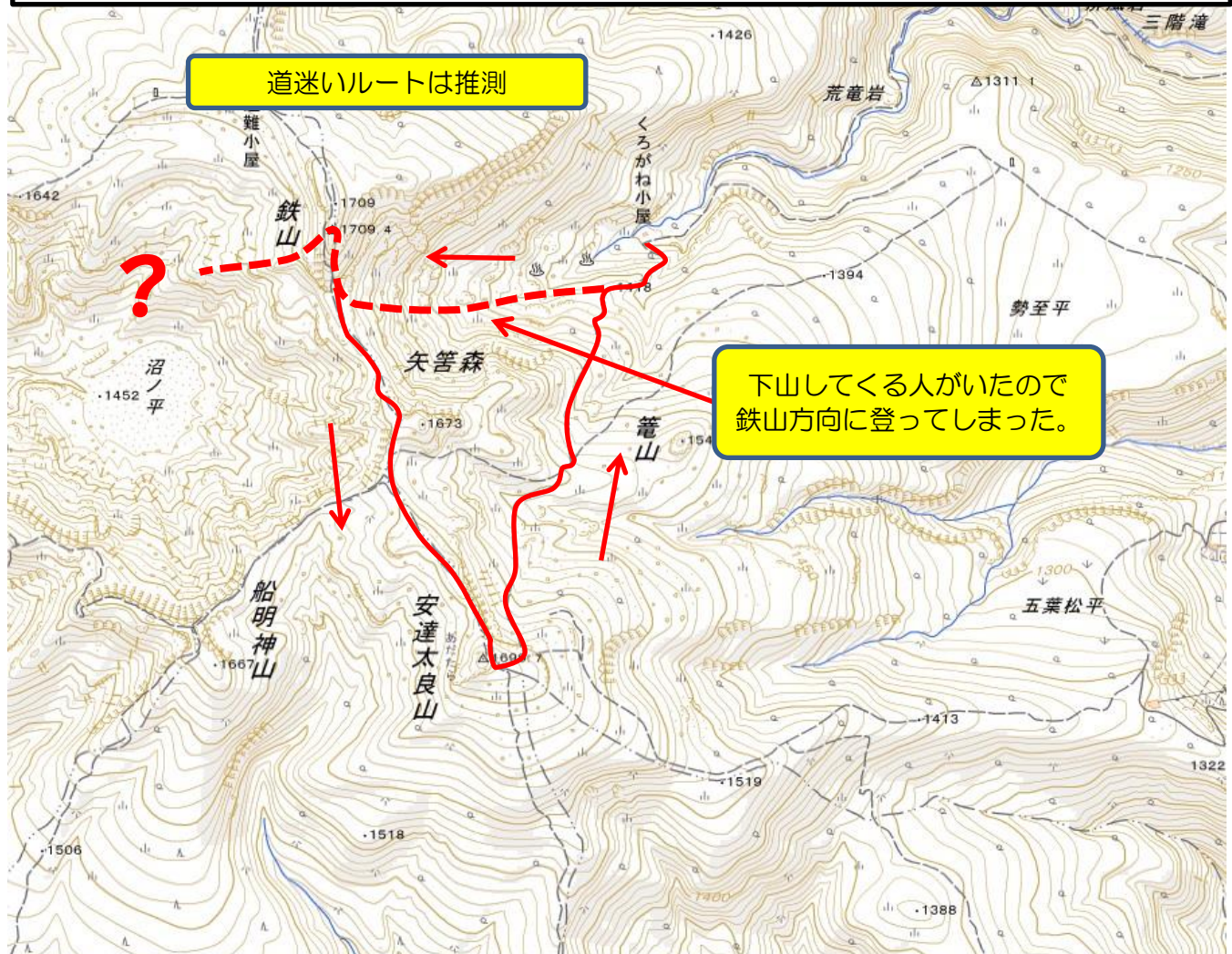


安達太良山道迷い(1974年8月)

4回目の登山。濃霧の中、踏み跡を登り別方向の鉄山たどり着く。ここから安達太良山を目指すも、濃霧のため沼ノ平方面へ下ってしまう。急なガレ場のため思いとどまり、天気回復を待つ。天気が回復し、馬の背の稜線が見え方向性が確認できたため行動を開始。無事安達太良山経由で下山した。



解説

「この山はもう4回目、という慢心。私は踏み跡に導かれて直進してしまい、急なガレ場を鉄山方向へと登ってしまいました。そのルートで降りてきた人がいたため、私たちも上がってしまった、という状況でした。」

「霧が私たちを包み、踏み跡は消え、岩場の登りになり、視界は5メートルほどになりました。方角を失ったというよりも、宙に浮いているような感覚でした。」

「私たちは、ずっと霧のなかを動き回ったため、寒さを感じ始めていました。この段階で初めて、地図と磁石を出してみたものの、視界がないために、周囲の地形と照合ができません。視界が回復するのを待つことにしました(15時35分)。」

「様子を確認。私たちは、崖を迂回して馬ノ背に降りるザレ場をたどって下降。馬ノ背の標識まで到達。17時過ぎに安達太良本峰に到達。馬ノ背を経て、18時10分にくろがね小屋に戻りました。」(HP参照)

濃霧の中での行動は、注意する事柄が多い。どの方向に進んでよいのか？寒さや日没が迫ってくる時間経過に不安が募る。しかし、動かないという行動も大変重要。むやみに動き回り滑落事故につながるケースも多い。そのためには、日帰り登山とはいえ、ツェルト、食料、防寒着、ライト等の必要最低の装備は必ず持参したい。